

市政の最近のできごとを紹介します。



## 県内初「マッチングハブ」を開催

産学官金連携のビジネスマッチングイベントに、県内外から大学や企業94団体が出席しました。パネル展示や実演、ステージ発表などを通して技術を紹介。参加者同士が交流を図り、新たな事業展開につなげました。(10月23日・24日)



## 想像力を育む、アーティスト体験

来年一部オープン予定の「米百俵プレイス ミリエ長岡」の小学生向けプログラムを実施しました。地元工務店で廃材のことを学び、その特徴を活かした作品作りに挑戦。作品が映える展示手法も考えました。(10月23日)



## 「発酵・醸造のまち長岡」を発信

長岡に根づく発酵・醸造文化の魅力を広く発信しようと「HAKKO trip」を宮内・撰田屋地区と長岡駅前で開催しました。約6千人が、地元の発酵・醸造食品を使った食事やしょうゆの仕込み体験などを楽しみました。(10月30日)



## 新しい技術で米どころ新潟を守る

長岡技大を中心に産官学が連携し、地域資源の完全循環の実現に向けた研究開発を始めます。キックオフ会議では、企業や農家、行政の関係者が豊かな資源と技術を活用した10年後のあるべき将来を語りました。(11月18日)



燕市でスクリーニング検査を受ける地域の代表者

## 原子力安全対策の強化へ 住民参加で防災訓練を実施

図原子力安全対策室 ☎39・2305

10月29日、地域防災力の向上や原子力安全対策の強化に向けた県の原子力防災訓練に、日越・関原・深才地区、三島地域の住民が参加しました。訓練では、県から柏崎刈羽原子力発電所の事故発生連絡を受け、緊急告知FMラジオや原子力防災ホームページなどで住民に情報や指示を伝達。住民は自宅で、放射性物質から身を守る屋内退避を行いました。続いて、各地域の代表約150人が一時集合場所に集まり、燕市や新潟市へバスで一時移転。安定ヨウ素剤の緊急配布や放射性物質による汚染を確認するスクリーニング・簡易除染など、一連の流れを確認しました。

参加した住民からは「災害時にとるべき行動を理解できた」「日頃から災害に備えることが大切」といった声が寄せられました。磯田市長は「いざという時に避難できるよう、しっかりと考えていきたい」と述べました。



1 物件があるエリアから見える風景 2 物件から徒歩8分のまちの駅「吟床」で交流する地域住民。「体験者のお世話もしますよ!」と駅長の星野さん(左) 3 越後杉を使用したダイニングキッチン

市外の人に  
ご紹介を

# 山の暮らし 雪を感じる 地元の交流 山古志暮らし、お試しで

図地域振興戦略部 ☎39・2515

「自然に囲まれてのんびり暮らしたい」。地方移住への関心の高まりを背景に、市では移住者の受け入れや定住化の促進に取り組んでいます。11月から山古志・竹沢地区で市外の人向けにお試し移住体験をスタート。山古志の豊

かな自然や雪深い冬の生活の魅力を感じることができず。物件は、中越地震の被災者向け公営住宅の空き室を活用。遊休施設の有効活用を図ります。体験は3月中旬まで。日赤

町でも実施しています。市外・県外の家族や友人など、移住に興味がある人にぜひご紹介ください。

★体験内容や申し込みなどはこちら



## 山古志の人・自然の魅力が心を豊かに



昨年9月に山古志に移住地域おこし協力隊・中澤 泉さん  
山古志は四季がはっきりしていて、自然に囲まれて生活する豊かさを感じられます。地域のみなさんも温かく迎え入れてくれ、居心地がよいです。田舎暮らしへの憧れがある人はぜひ来てみてください。

## 18カ国の外交団が長岡に! 錦鯉、花火、食文化を 世界に発信

図農水産政策課 ☎39・2223



1 長岡造形大学の学生たちが施した錦鯉の装飾。アオーレ長岡で外交団を出迎えました 2 長岡産食材を使った料理でもてなした昼食会

泳ぐ宝石・錦鯉の魅力を国内外に発信する「世界錦鯉サミット」を11月6日、新潟市で初めて開催しました。前日には、18カ国の駐日外交団が視察ツアーで長岡を訪問。錦鯉をはじめ花火や食文化など長岡の魅力を伝えました。道の駅ながおか花火館では長岡花火に込められた思いや歴史を紹介。長岡産食材を使った料理でもてなしました。やまこし復興交流館おらたるでは、日本の原風景であり錦鯉を育んだ棚田や棚池とそこから上がる花火を間近で鑑賞してもらいました。長岡のさまざまな魅力に触れた参加者は「長岡花火に鎮魂や復興の思いがあることに感動した。また訪れたい」と話していました。